

◎ COC、COC+に関する説明会・講演会

COC、COC+の事業報告、事業計画の説明会と講演会を実施

6月30日(木)に本学教職員を対象とした「COC、COC+事業に関する説明会・講演会」を開催しました。COC事業に関する平成27年度の事業報告と平成28年度の事業計画、今年度から新たに参画する「COC+事業」の取組みについて、森正美地域協働研究教育センター長が説明しました。

続いて、京都府内のCOC事業採択校であり、文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+事業)」の幹事校である京都工芸繊維大学の理事・副学長の大谷芳夫氏に「京都工芸繊維大学のCOC、COC+と大学改革について」と題して、ご講演いただきました。京都工芸繊維大学のCOC、COC+事業の理解を深めるとともに、COC、COC+に取組む意義、大学改革との関係、大学内での位置づけなどについて、学ぶことができ、今後の本学の事業展開に繋がる有意義な講演会となりました。

COC+事業で本学は、京都工芸繊維大学、京都府立大学、京都学園大学、舞鶴工業高等専門学校とともに「北京都を中心とする国公私・高専連携による京都創生人材育成事業」に取組み、京都府南部地域において、地域人材を育成し、京都府下における就職率の向上等に努めて参ります。



◎ ともいき講座「認知症とともに生きる」

「認知症の疾病観を変えていきたい」当事者の話から学ぶ

7月18日(月)に、ともいき講座「認知症とともに生きる：『認知症の人にやさしいまち・うじ』の実現に向けて」を実施しました(主催：大学COC事業・ともいき研究助成「宇治市認知症アクションアライアンスに関する当事者研究」)。

2025年には高齢者の5人に1人が認知症を患う時代がくるとされているなか、宇治市は「認知症の人にやさしいまち」への一歩として、今年から「宇治市認知症アクションアライアンス“れもねいど”」を発足させました。認知症当事者を中心とした、医療・行政・教育・その他さまざまな領域との協働事業に本学も参画しています。

今回の講座では、ともいき研究の研究代表者である臨床心理学科平尾和之准教授が司会・コーディネーターを務め、認知症当事者である杉野文篤さん・由美子さんご夫妻と京都府立洛南病院の森俊夫先生をお迎えしました。杉野夫妻からは、認知症と診断されてからの不安や困惑の日々、その後出会った若年性認知症プログラムのテニス教室や「認知症カフェ」への参加、さまざまな仲間との出会い、そして当事者として病気をオープンにし、発言を行う決意…夫婦で試行錯誤されてきたこれまでをお話いただきました。認知症の人が普通に暮らせるまちづくりを、さまざまな人々の協力のもとでつくっていくことの意義を、約290人の来場者や学生とともに分かち合うことができました。



お知らせ

京都文教大学創立20周年記念事業

ともいき(共生)フェスティバル2016 ~創立20周年「ありがとう」~

- 日時：2016年12月10日(土) 10:00~16:00
- 会場：京都文教大学 サロン・ド・パドマ、グラウンド 他

子どもからご年配の方、障がい当事者や留学生など、様々な人が集い、交流できる地域のみなさんを対象とした大学開放イベント!今年度も様々なステージやブースを準備しています。

- (1) 学長ともいきトーク
- (2) ともいき文化祭ステージ
- (3) ともいき講座
- (4) ともいきスポーツ教室
- (5) ともいきブース
(a.ミニ講座・トークセッション/b.ワークショップ・体験コーナー/c.展示/d.模擬店/e.物販/f.ステージ/g.その他)
- (6) ともいきまちづくりミーティング

- 主催：京都文教大学 地域協働研究教育センター
- 問合せ：京都文教大学フィールドリサーチオフィス



ともいきスポーツ教室



ともいきブース

※2015年度の様子

京都文教大学 地域協働研究教育センター

ともいき vol.8
ニュースレター TOMOIKI 2016年8月発行

「京都府南部地域 ともいき(共生)キャンパス」でのさまざまな活動をお伝えします。



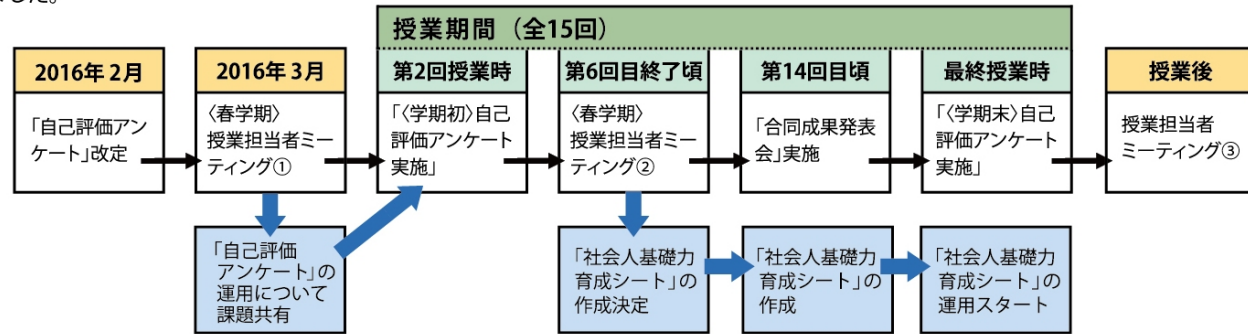
現場実践教育科目「プロジェクト科目(地域)」

(2単位・選択必修)

<2016年度春学期>プロジェクト科目(地域)—授業実施の流れ

「プロジェクト科目」は今年度より「プロジェクト科目(地域)」と「プロジェクト科目(テーマ)」に授業カリキュラムがわかれ、新たなスタートを切りました。本学の「プロジェクト科目」はPBL(Project Based Learning / 課題解決型学習)の手法を取り入れ、京都府南部を中心とした地域で活動しています。

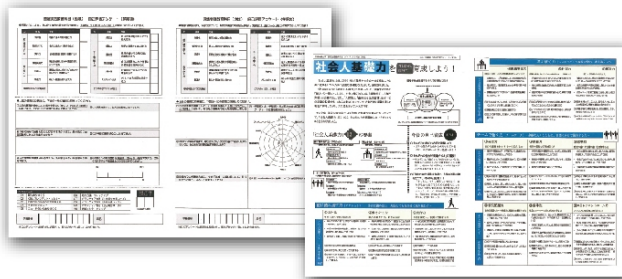
今年度は下記のスケジュールで実施し、受講生にとってより学びが深まり、また次の学習ステップへの接続となるよう、運営改善を行いました。



「自己評価アンケート」の改定と「社会人基礎力育成シート」の新規運用

従来、「振り返りアンケート」として運用していた受講生の自己成長度合いをはかるアンケートを「自己評価アンケート」へと名称変更を行い、「地域」へ出る前と出た後での変化を自己評価するよう修正を行いました。

また、この「自己評価アンケート」を使い、受講生自身がしっかりと内省化し、受講生自身が振り返りを言語化していくプロセスの中で使用するために、新たに「社会人基礎力育成シート」を作成し活用をスタートしました。



<2016年度春学期>授業内容と「合同成果発表会」の講評

「プロジェクト科目(地域)」は宇治市や京都市伏見区を中心とした「地域」をフィールドに、行政や地域に根差した企業、地域住民の方にご協力いただきながら、今期は5クラスを開講しました。それぞれのクラスの今学期の授業内容と7月16日(土)に実施した「合同成果発表会」の発表内容についての講評は下記の通りです。

◎「合同成果発表会」講評:橋本祥夫(地域連携委員・地域協働研究教育センター員/臨床心理学部教育福祉心理学科 准教授)

「ニュータウンのまちづくり」クラス

担当教員:小林大祐/連携先:二ノ丸民生委員児童委員協議会 他

向島ニュータウンで民生委員さんから地域の子どもの現状を聞いたり、ひとり親の子どもたちのために大学生と小学生と一緒に料理をし、食べる「キッズキッチン」の企画運営、実施をしました。

講評

命に繋がる「食」。「作る」際にも「食べる」際にもコミュニケーションが生まれ、子どもたちの心を揉み解し、自分が独りじゃないという心の拠り所になっていることでしょう。この取り組みを通じて食事を誰かのために作る、そして作ったものをおいしいと言ってもらう喜びが子どもたちの自己肯定感につながっているはず。

「お祭りから地域の交流を考える」クラス

担当教員:滋野浩毅/連携先:宇治市広野公民館

「しゃべり場」を通じて、広野エリアの今昔について学び、広野の歴史を後世に伝えていくために子どもたちやその保護者、地域の方など、さまざまな世代の方と共に祭りのときに上演する「人形劇」に取組みました。

講評

祭りは地域の歴史や文化が詰まっています。世代間の交流が生まれますが、現在はさまざまな人々が地域や国を越えて祭りの担い手になっています。そんな中で、新しい地域文化や地域の伝統というのを創り出すにはどういったことが必要なのか、今後は踏み込んだ活動を期待しています。

「すきっぷジュニア」クラス

担当教員:松本寿弥/連携先:(学内)すきっぷプログラム

大学院の「すきっぷプログラム」という発達障がいのある子どもをお持ちの子どもさんとその家族を支援するプログラムに対して、何か貢献できることを受講生自身で考えてみるという授業。その結果、すきっぷの活動を伝えるフリーペーパーを作成しました。

講評

臨床心理学部の学びを活かして、障がいのある子どもにも支援していくということは、地域性という点からも非常に貢献していると思います。そのため、自分の役割がどのように地域や社会に貢献できているのかということに常に意識するようにしましょう。今後社会に出た際の「仕事のやりがい」にも繋げていくことができるはず。



<2016年度春学期>プロジェクト科目(地域)「合同成果発表会」最優秀プロジェクト賞「観光まちづくり」クラス

担当教員:森 正美/連携先:京阪ホールディングス株式会社

インタビュー:久保 宏真 (総合社会学部 総合社会学科 2回生)

▶どんな授業内容でしたか?

京都伏見の観光は伏見稲荷大社に集中しているという状況の中で、伏見エリア全体に観光を発展させるために、地域資源である「伏見の水」を使って新たな魅力を発信することが授業の課題でした。また、日本人だけでなく外国人の方に伏見の水の魅力を伝えることも課題でした。



▶どんな地域で、どんな活動をしたのですか?

まず、伏見の月桂冠大倉記念館に行き、「伏見の水」はマグネシウムとカルシウムが程よく含まれ、硬度が低い軟水のためお酒造りに適していることなどを学びました。また、京阪電車で実施されていた「伏見名水スタンプラリー」で10ヶ所の伏見の名水ポイントをまわりました。これらの経験が京阪宇治駅で実施したイベントで「伏見の水」について説明するときに活かしました。

▶実施したイベント内容について教えてください

京阪宇治駅で宇治茶、紅茶、カルピスを伏見の水と市販の硬水を使って淹れ、どちらが好みか飲み比べてもらいました。体験をしてくださったお客さんの中にも軟水と硬水の味の違いをわかる方がいて、確かに違うねと言われることもありました。当日、宇治茶884杯、紅茶632杯、カルピス34杯を飲んでいただきました。



<連携先からのコメント> 京阪ホールディングス株式会社 経営統括室 事業推進担当 若林 浩吉 氏

初回の授業に何わせていただいたとき、受講生が「何からどう手をつけたいのか」という不安な表情をしていたのをいまだに覚えております。それがいざ授業のテーマに向けて、何をしていくのかという企画を検討し、実践していく中で、情報収集して、実践する。また、実践の中で人とのコミュニケーションをとりながら、ひとつひとつのプロセスをこなしていくうちに、学生の表情が変わっていき、本日の発表でも本当にこんな顔だったかな?というくらい自信に満ち溢れている様子を見て、とても成長を感じました。本当に最優秀プロジェクト賞おめでとうございます。



<2016年度春学期>プロジェクト科目(地域)「合同成果発表会」優秀プロジェクト賞「KBUプレジデント・セミナー」クラス

担当教員:木田 竜太郎/連携先:京都府山城広域振興局(寄付講座として実施)

インタビュー:中井 匠・松尾 一樹 (ともに総合社会学部 総合社会学科 2回生)

▶どんな授業内容でしたか?

京都府南部地域を拠点に活躍する企業・自治体のトップによるゲスト講義「KBUプレジデント・セミナー」を京都府山城広域振興局の寄付講座として実施しました。

そのトップの方々も20歳代の頃に何をされていたのか、どうしてトップになったのかを語っていただき、将来に悩む学生にアドバイスしていただくという全5回のセミナーの企画～運営を行いました。

● KBUプレジデント・セミナー (全5回)

1	4月27日(水)	前京都府山城広域振興局 局長	田中 準一 氏
2	5月28日(土)	宇治市 市長	山本 正 氏
3	6月 8日(水)	有限会社 日双工業 代表取締役	西田 裕子 氏
4	6月22日(水)	株式会社 花駒 代表取締役	上野 雄一郎氏
5	7月 6日(水)	コタ 株式会社 代表取締役社長	小田 博英 氏

▶実際に授業を受けて、感じたことを教えてください



中井:最初は、どう迷惑をかけずにゲストに接していくべきか、失敗を恐れるばかりで何もできていませんでした。結果的に予想外の対応に迫られることもあり、失敗という経験を重ねる中で、ステップアップできたと実感しています。そのなかで、4回目ゲストの上野社長のメッセージ「挑戦しなければ失敗はないが、失敗からの成長を得ることはできない。失敗という経験が成功に近づいていく。」は心に響きました。

松尾:ゲストの方々を受講生自ら質問する機会もあったのですが、言葉遣いや態度に気を遣うばかりで、言葉が出てこないこともありました。その時、木田先生の「質問はゲストとコミュニケーションを取る場」という言葉が私には大きかったです。質問の上手・下手は経験次第、どんな些細なことでも質問することが大事だと考えを改めることができました。セミナー運営を重ねるなかで、一つ一つ課題解決した経験からか、自身のこと以外にも目を向けられるようになり、自分で考え行動する力が身についたと実感しています。

<連携先からのコメント> 京都府山城広域振興局 農林商工部 商工労働観光室 久井 愛氏

優秀プロジェクト賞受賞おめでとうございます。

当初は大人しい学生さんたちに不安も覚えましたが、回を重ねたセミナーの成果もあり、発表会ではこれまでに一番堂々とされていました。発表の内容もとてもわかりやすくまとめておられたと思います。

他の授業や就職活動をする傍らで、このセミナーを最後までやり抜いた経験はみなさんにとって自信につながったことでしょう。この経験を今後にもぜひ活かしていただけたいと思います。

学生が自ら、地域の課題を見つけ、その解決策を模索する取組み 地域連携学生プロジェクト

「地域連携学生プロジェクト」は、地域を対象とする学生の自主的活動のなかから、地域特性を活かしつつ、成果が期待できる取組みをプロジェクトとして選定し、支援、助成しています。

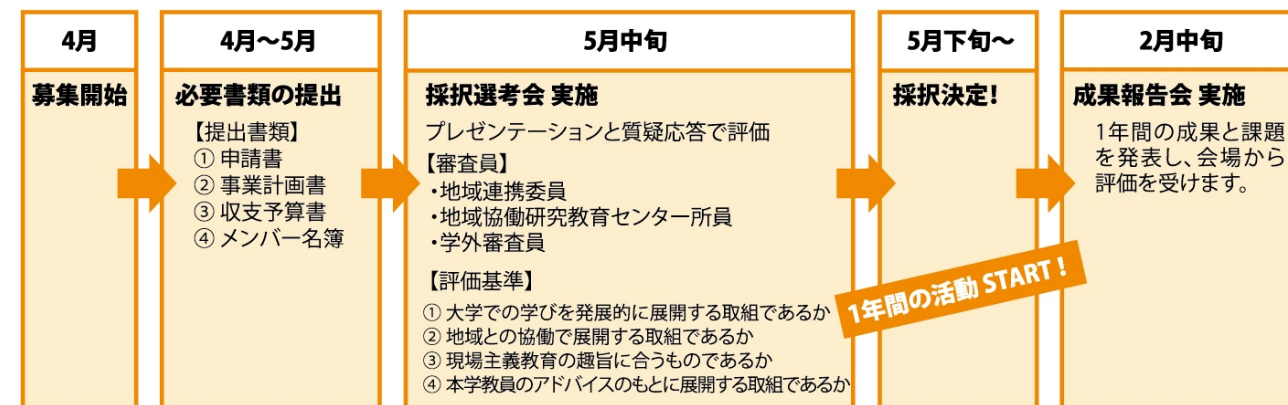
この「地域連携学生プロジェクト」への支援は、2007年度に採択された文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)」[現場主義教育充実のための教育実践～地域と結ぶフィールドワーク教育～]を契機に制度化したもので、補助期間終了後も、本学では、学びと地域貢献を両立させる場として、積極的に学生たちの地域での活動を支援しています。2007年度から2016年度まで、のべ75団体が採択されています。

地域に根ざし、地域に学び、地域への貢献を目指す本学の教育研究目標を達成するために、まちづくりや地域の課題解決などへの学部、学科を超えた主体的な取組みとして、2016年度は4つのプロジェクト(継続3件、新規1件)が採択され、現在活動を進めています。

今回は、今年度採択のプロジェクトを、活動の概要とプロジェクトメンバーとして活動を行う学生たちのコメントを中心に紹介します。



地域連携学生プロジェクト 採択までの流れと年間スケジュール



2016年5月18日(水)に開催された採択選考会には、学内外から約100名が来場し、学生たちの話しに耳を傾けました。



子どもの農業体験応援団

日本の伝統的食材であるお米への関わりや農作業経験の減少は、和食離れを進行し、自然への感謝の気持ちを持つことや農や食への理解を難しくしています。そこで本プロジェクトでは、農産業推進に力を入れておられる近畿農政局と、食育に高い関心を持ち様々な活動を展開しておられる「はなぶさ保育園」と連携し、保育園での稲栽培とそれに関連する一連の活動を実施します。地域の子も達が、お米や地元の食材を育てる経験を通して、米文化を幼い頃から体感すること、そして保育・教育に携わる教育福祉心理学科の学生が参加し、子どもたちと共に自らも学ぶことを目標として活動します。



子どもの農業体験応援団 代表
丸田 晴香(臨床心理学部教育福祉心理学科 4回生)

このプロジェクトでは子どもの農業体験を応援します。今年は近畿農政局、京都市伏見区のはなぶさ保育園と連携して園児とお米作りをしています。前期には牛乳パックを利用した種まきや、田植えに参加しました。子どもたちの農業体験を通して、私たち自身もお米の作り方や子どもたちに教える難しさを学んでいます。後期には、小学校教員や保育士を目指す学生が、それぞれの学びの専門性を活かして園児にお米の話をする。

参加学生の声



響け! 元気に応援プロジェクト

宇治を舞台にしたアニメ作品「響け! ユーフォニアム」を通して、地域とアニメファンをつなげる取組みを行っています。昨年発足し、手探りで1年間進めていくなかで、少しずつ成果も上がってきました。10月からは続編の放送も決まり、アニメの“聖地”である宇治を訪れるファンは増加しています。プロジェクト発足当初から実施しているファンを対象にしたキャラクターの誕生日イベントや、地域の子もを対象にしたワークショップの継続実施と併せ、今年度は、月に2回、宇治橋通り商店街にある本学のサテライトキャンパスを開放し、宇治を訪れるファンの居場所作りにも力をいれています。また、宇治市(商工観光課)、宇治市観光協会をはじめ地元商店街や企業と連携することで、学生から行政への提案や企業主催の関連イベントへの協力なども積極的に行っており、地域ぐるみで作品を応援していきます。



響け!元気に応援プロジェクト 副代表
佐竹 秀規(総合社会学部総合社会学科 2回生)

アニメが好きで、そしてアニメによる地域振興という点に興味を持ち、プロジェクトの発足メンバーとして加わりました。1年間活動を続けてきて、イベントに繰り返し参加くださるファンの方や商店街をはじめとした地域の方との関わりも深くなってきました。「響け! ユーフォニアム」を通して宇治のことやアニメのことを沢山お話できるのはとても楽しく、更に活動を続けることで、みなさんが宇治のことを好きになってくださり、より良い関係が築けるようになっていきたいと思います。

参加学生の声



宇治☆茶レンジャー

学生が宇治茶について学び、そこで気付いた宇治茶の魅力を広く地域に発信していくプロジェクトです。地域にも根付いてきている「宇治茶スタンプラリー」の実施をはじめ、宇治茶に触れるイベントやお茶の淹れ方のワークショップなどを展開していきます。これまでも実施してきた「聞き茶巡り(参加者がお茶屋さんを巡り、店主さんとの会話と美味しい宇治茶を味わうイベント)」を、今年度は学生ガイド付きのツアー形式に変更し、より観光とリンクした催しへ転換を図っていきます。また、昨年度末に行われた「大学対抗茶香服リーグ」での優勝をきっかけに、学びへの意欲も高まり、お茶に関する資格取得もメンバーの目標になっています。



宇治☆茶レンジャー 代表
前原 美羽(総合社会学部総合社会学科 2回生)

活動を通して幅広い年代の方に宇治茶の淹れ方や味わいの楽しみを知っていただき、宇治茶から始まるコミュニケーションの場の創出を目指しています。活動を始めて今年で7年目のプロジェクトですが、いつも協力いただくお茶屋さんをはじめとした地域の方からの声を大切にしながら、宇治茶の魅力をより深く知ってもらえるよう、プロジェクトメンバーで企画を考え、今後も新しいことにも積極的にチャレンジしていきたいです。

参加学生の声



商店街活性化隊 しあわせ工房 CanVas

宇治橋通り商店街振興組と連携しながら、商店街の魅力発信に努めています。商店街のイベントへの参画はもちろん、昨年度初めて実施した、まちあるきにスポーツの要素を加えた「ロゲイニング」の手法を使った独自企画を更にブラッシュアップし、規模を大きくして実施を考えています。また、イベントだけでなく、学生目線での店の魅力発信に特に力を入れており、プロジェクトメンバーが商店街のお店取材し、個性的な店主さんやおもしろい商品を紹介する「イチ推しプレート」の作成や、今年度は新たに商店街の公式ホームページの更新にも携わっていきます。今年度は多くの1回生メンバーが加わり総勢42名の大所帯となりましたが、1人1人が商店街との関係を深め、更に活動を強化していきます。



商店街活性化隊 しあわせ工房 CanVas 副代表
兼井 茜(総合社会学部総合社会学科 2回生)

学生という立場で自分たちに出来ることは何かを考えること、それを形にしたりすることの面白さ、また難しさを学びました。これまで宇治のことを何も知らなかった私ですが、今では宇治橋通り商店街の佐脇理事長をはじめとしたみなさんが気軽に声をかけてくれるようになりました。そんなあたたかい店主さんが沢山いらっしゃるのが宇治橋通り商店街の魅力です。笑顔あふれる宇治橋通り商店街の素晴らしさを少しでも多くの方に伝えられるよう、メンバーと一緒に頑張っていきます。

参加学生の声



宇治市や京都市伏見区を拠点とするプロジェクトは他にもいっぱいあります！

地域で活躍する学生たちの取組紹介

前項で紹介した地域連携学生プロジェクトの他にも、本学には地域へ出て、地域の方々と一緒に活動する学生団体が多数あります。学内のサークルや、学生や地域住民からなる実行委員会形式のもの、また、本学教員が顧問を務める研究会から発足したものなど形式は様々です。本学のある宇治市や、最寄り駅のある京都市伏見区を舞台に、地域のニーズや課題にあわせた取組みが行われています。ここでは、それらの地域活動の一部を紹介します。

掲載プロジェクト以外にも、ひとり暮らしのお年寄りを対象にしたバスツアーの企画運営を行う「京都文教大学バスツアーズ」や、宇治を訪れる修学旅行生の旅行プランを企画し、当日の案内やガイドを務める「修学旅行サポートプロジェクトたび旅」など旅行や観光をテーマにしたプロジェクトも盛んです。また、地域の町内会や自治会からの依頼を受け、夏祭りや地蔵盆、お楽しみ会などへの出演・出展等も多く、沢山の学生が地域と関わる機会を持っています。



向島地域の高齢者を対象とした学生企画のバスツアー

アジア・アフリカ

とびつきり映画祭実行委員会

アジア・アフリカとびつきり映画祭実行委員会は、2009年から活動を始め、大学生や地域住民、留学生、在日外国人と一緒に実行委員会を結成し、「アジア・アフリカとびつきり映画祭」の開催や関連ワークショップ等の文化交流事業に取組み、多文化共生のまちづくりを目指しています。これまでに、アジア・アフリカのすぐれた映像作品の上映や大学生・留学生が講師となって自国の料理を教え合う国際キッチン、異文化の面白さを伝える国際ラジオ、その他交流会等を実施しています。



アジア・アフリカとびつきり映画祭実行委員会
藤田 隆志(右)・坪野 心太郎(左)(ともに総合社会学部総合社会学科 3回生)

優れたアジア・アフリカの映像作品を通して、多文化共生のまちづくりについて考える機会となることを目指してきた「アジア・アフリカとびつきり映画祭」も今回で通算8回目を迎えます。今回は来年2月4日に中国の旧正月と絡めたイベントを企画中です。映画だけでなく、留学生と地域の人々が楽しく交流出来る場を作るつもりです。皆様も当日は是非ご参加ください。お待ちしております。



参加学生の声

すきっぷプログラム

すきっぷプログラムでは、発達障がいを抱え、学校への適応や対人関係につまずいている小学2年生から4年生の子どもとその保護者を対象としたグループ療法を、心理専門スタッフのもと、学部生・院生が中心となって行っています。遊びや運動、グループ活動を通して自信や協調性を高め、子どもたちの全般的な発達の支援となることを目指しています。また保護者に対しては、親同士の交流の場を提供し、日常生活で周囲の理解や協力が得られず孤立しやすい親たちの情緒的支援を目的としています。



参加学生の声

すきっぷプログラム
小井手 あづさ(臨床心理学研究科修士1回生)

発達障がいまたはその傾向のある子どもたち、そして保護者の方々の力になりたいという想いをもって活動を行っています。頼れる先生方や先輩方の力をお借りしながらも、真剣に子どもたちと向き合うことで、自らも実践的な学びを得つつ、地域の子どもたちやその保護者の方々に寄り添える場でありたいと思っています。

学生放送局 SHERPA

2015年8月に始動し、ラジオ番組「文教シェルパ!」を同年11月から京都リビングエフエム(FM845)で毎月第4木曜 午後12時30分から30分間放送しています。地域で頑張る人々を学生目線で見つめ、大学周辺地域を盛り上げようというモットーで番組を制作。横島のクライミング・ジムや伏見の酒蔵など様々な視点から地域を見つめています。また、京都市伏見区・宇治市で行われるイベントの司会・音響や大学学内放送、向島学生センターに住む外国人留学生とのクリスマスラジオ企画や商店街内放送など多岐にわたる活動により、より一層地域との関係を深めています。



学生放送局SHERPA
高尾 善之(総合社会学部総合社会学科 4回生)

ラジオを通して出会ったヒト・モノが数知れずあります。商店街や自治会のイベントに司会として呼んでもらったり、杉本星子先生の講義「情報化社会と地域デザイン」では、ゲスト講師として番組制作のお話をさせていただいたりしました。こうして「地域の輪」がどんどん広がっていくことに感動し、もっと大きな輪になるよう努力を重ねています。地域に寄り添えるメディア「ラジオ」だからこそ、地域や大学のマスコミ的存在になりたいと考えています。これからもラジオを通して培った縁を大切にしたいですね。



参加学生の声

文教ストリートプロジェクト

大学近郊に位置する向島ニュータウンでは、核家族化や少子高齢化が進行し、子どもや高齢者の支援が求められています。本プロジェクトは、子どもの支援のため、向島ニュータウンセンター商店街内にある地域コミュニティスペース「京都文教マイタウン向島(MJ)」で、週1回、小学生を対象に勉強会を開催しています。ここでは、主に子どもたちに宿題を教えながら、一緒に時間を過ごしています。宿題が終わったら、みんなで遊び、この勉強会が子どもの居場所となるよう、活動に努めています。



文教ストリートプロジェクト 代表
横田 奈津希(臨床心理学部臨床心理学科 2回生)

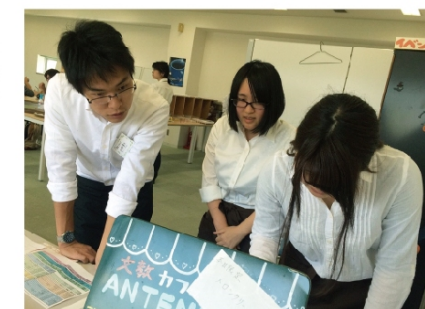
私がこのMJの勉強会の活動に参加して、1年がたちました。子どもたちとのコミュニケーションなど、苦労を感じたこともありましたが、活動を続けるうちにやりがいも感じました。特に、子どもたちからの嬉しい言葉や手紙、保護者の方からの言葉が強く心に残っています。今後も子どもたちのよき勉強の場であり、一つの居場所となることを目標にし、活動を続けていきたいと考えています。



参加学生の声

文教カフェ ANTENNA

「ノーマライゼーションの実現」を目標に、精神疾患をもつ方と学生が共にスタッフとしてカフェを運営しています。カフェで提供・販売しているお菓子やパンなども、宇治市や京都市伏見区にある福祉施設から仕入れています。障がいをもつ方の社会参画の機会であり、障がいをもつ方と働くことで、学生にとっても大きな学びの場となっています。



文教カフェANTENNA 代表
辻 清愛(臨床心理学部臨床心理学科 3回生)

イベントの企画や営業システムの見直しなど、よりお客様に喜んでいただけるサービスを目指して、学生メンバーだけでなく施設スタッフさんと一緒に意見を出し合って運営しています。新メンバーが増えた際、施設スタッフさんが「今まではサポートしてもらっただけ、これからはサポートする側になりたい。」と仰られたことがとても嬉しかったです。ANTENNAは今年で10周年。これからも全スタッフが互いに支え合い、よりよいANTENNAになるよう努めています。



参加学生の声

■営業時間: 毎週水曜日 12:00~14:30 京都文教大学内恵光館3階